

はじめに

発起人 王貞治より

王貞治・大谷翔平を超える
世界的ヒーローを生みだそう！

BEYOND H! PROJECT

50年後、100年後の未来を見据えた、オール野球界での取り組み

球心会

2024年11月20日

これまで主要野球団体のトップの皆さまに、
直接想いをお伝えさせて頂きました。



この半年間で、60名超の皆さまとお話させて頂き、月1回の議論を重ねて参りました。

NPB 球団	山口 寿一	讀賣	オーナー
	星 春海	讀賣	取締役
	谷本 修	阪神	取締役 オーナー代行
	鳶村 聡	阪神	専務取締役 球団本部長
	永井 康晴	阪神	事業本部振興部 部長
	大島 宇一郎	中日	オーナー
	吉川 克也	中日	代表取締役社長 オーナー代行
	小池 貴志	中日	野球振興部部長
	石黒 哲男	中日	野球振興本部 野球振興部兼OB会事務局
	南場 智子	横浜DeNA	オーナー
	木村 洋太	横浜DeNA	代表取締役社長
	鐵 智文	横浜DeNA	執行役員 ビジネス統括本部 副本部長
	松田 元	広島東洋	オーナー
	鈴木 清明	広島東洋	常務取締役 球団本部本部長
	矢野 雅紀	広島東洋	取締役社長 室長
	三雲 暁	広島東洋	社長室野球振興グループ 課長
	成田 裕	東京ヤクルト	オーナー
	林田 哲哉	東京ヤクルト	代表取締役社長
	星子 秀章	東京ヤクルト	(本社) 取締役 専務執行役員
	岡崎 真也	東京ヤクルト	常務取締役 管理本部長
	湊 通夫	オリックス	代表取締役社長 オーナー代行
	後藤 芳光	福岡ソフトバンク	代表取締役社長 オーナー代行
	嘉数 駿	福岡ソフトバンク	球団統括本部付ディレクター
	井川 伸久	北海道日本ハム	オーナー
	三好 健二	北海道日本ハム	連盟渉外担当
	玉塚 光一	千葉ロッテ	オーナー代行
	高坂 俊介	千葉ロッテ	代表取締役社長
	佐野 浩至	千葉ロッテ	野球振興担当
	三浦 大典	千葉ロッテ	ボールパークコミュニティ部 部長
	後藤 高志	埼玉西武	オーナー
	奥村 剛	埼玉西武	代表取締役社長 オーナー代行
	加藤 大作	埼玉西武	コミュニティ創生部 部長
	松本 有	埼玉西武	コミュニティ創生部 マネージャー
	緒方 寿光	埼玉西武	コミュニティ創生部 部長
	森井 誠之	東北楽天	代表取締役社長
	松野 秀三	東北楽天	コーポレート本部地域連携部 部長

NPB	梶原 定征	日本野球機構	コミッショナー
	井原 敦	日本野球機構	事務局長
	平田 稔	日本野球機構	野球振興室 室長
	中村 勝彦	日本野球機構	事務局次長
	嶋 理恵子	日本野球機構	総合企画課長
	長谷部 匡信	日本野球機構	総合企画室次長
BFJ	加古 明美	日本野球機構	野球運営本部
	山中 正竹	全日本野球協会	会長
	長久保 由治	全日本野球協会	事務局長
学生	高橋 大地	全日本野球協会	事務局次長
	内藤 雅之	日本学生野球協会	常務理事 事務局長
	前橋 優太	東京六大学野球連盟	事業課長
	寶 馨	日本高校野球連盟	会長
	尾崎 充洋	日本高校野球連盟	主任
軟式野球	山口 宏	全日本軟式野球連盟	会長
	小山 吉男	全日本軟式野球連盟	専務理事
	吉岡 大輔	全日本軟式野球連盟	事務局長
社会人 野球	清野 智	日本野球連盟	会長
	谷田部 和彦	日本野球連盟	専務理事
	神保 忠弘	日本野球連盟	事務局長代理
女子野球	山田 博子	全日本女子野球連盟	会長
独立 リーグ	馬郡 健	日本独立リーグ野球機構	会長
	飯島 泰臣	日本独立リーグ野球機構	専務理事
ソフト ボール	宇津木 妙子	日本ソフトボール協会	副会長
	矢端 信介	日本ソフトボール協会	事務局長
ティーボール	吉村 正	日本ティーボール協会	理事長
学識経験者	吉永 武史	早稲田大学	スポーツ科学部准教授
選手OB	栗山 英樹		
	工藤 公康		
	古田 敦也		
	井口 資仁		
	斎藤 佑樹		

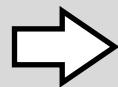
※敬称略、順不同、球心会参加者、又は王さんが直接本件に関連してお会いされた方のみ

わたしたちが野球からもらった夢の力。
これを将来世代にもつないでいきたい。

世界を沸かし、子どもたちに夢と希望を与えるヒーローが
これからも野球界、ひいてはスポーツ界から生まれる未来に向けて、
いま我々に出来ることは何なのか？

そのために、各野球関連団体が力をあわせて
オール野球界として踏み出すべき一歩は何なのか？

AGENDA



1. 現状の野球界における取り組みについて
2. 今後100年を見すえた時に解決すべきマクロ課題について
3. それを解決するための中長期的な打ち手案について
4. まとめ

現状、野球の普及振興活動は、
各野球関連団体が様々な工夫を凝らして実施しています。

野球界各団体別活動件数

各団体 最高値

各団体 次点値

※2022年NPB普及振興委員会 調べ
(23年度実績も集計予定とのこと)

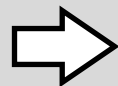
団体	野球教室	体験活動	訪問活動 (野球体験)	訪問活動 (その他交流活動)	授業研究会	大会開催	観戦招待	講習会	地域貢献活動	その他(Ⅰ)	合計
NPB	116	153	683	102	4	20	76	8	35	76	1,273
独立リーグ	184	71	28	15	9	3	49	7	86	81	533
選手会	3	6	39	0	0	12	1	0	0	0	61
OBクラブ	9	5	0	16	0	10	0	0	2	55	97
WCBF	6	1	9	0	0	0	0	3	0	3	22
名球会	7	0	1	0	0	0	0	0	0	0	8
殿堂博物館	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	14
BFJ	0	1	0	0	0	0	0	10	0	0	11
JABA	52	11	6	8	0	10	0	11	14	2	114
ヤングリーグ	0	0	0	0	0	0	0	14	0	0	14
ボーイズ	0	0	0	0	0	6	0	0	41	0	47
ポニー	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
リトル	0	3	0	0	0	1	0	0	0	4	8
フレッシュ	0	0	0	0	0	0	0	3	0	1	4
大学連盟	26	3	0	0	0	5	2	7	1	1	45
高野連	139	37	32	10	0	0	1	53	7	1	280
全軟連	12	14	5	3	0	6	0	76	7	1	124
合計	554	306	803	154	13	73	129	192	193	239	2,656

地域格差(e.g. NPB/独立フランチャイズ空白地域)・世代間の網羅性、リソース(ヒト・資金)は課題

しかし、
これらの各団体活動だけでは解決しきれない
「今後100年」を見据えた際のマクロ課題へのアプローチが
これからの野球界には必要だと考えました。

AGENDA

1. 現状の野球界における取り組みについて



2. 今後100年を見すえた時に解決すべきマクロ課題について

3. それを解決するための中長期的な打ち手案について

4. まとめ

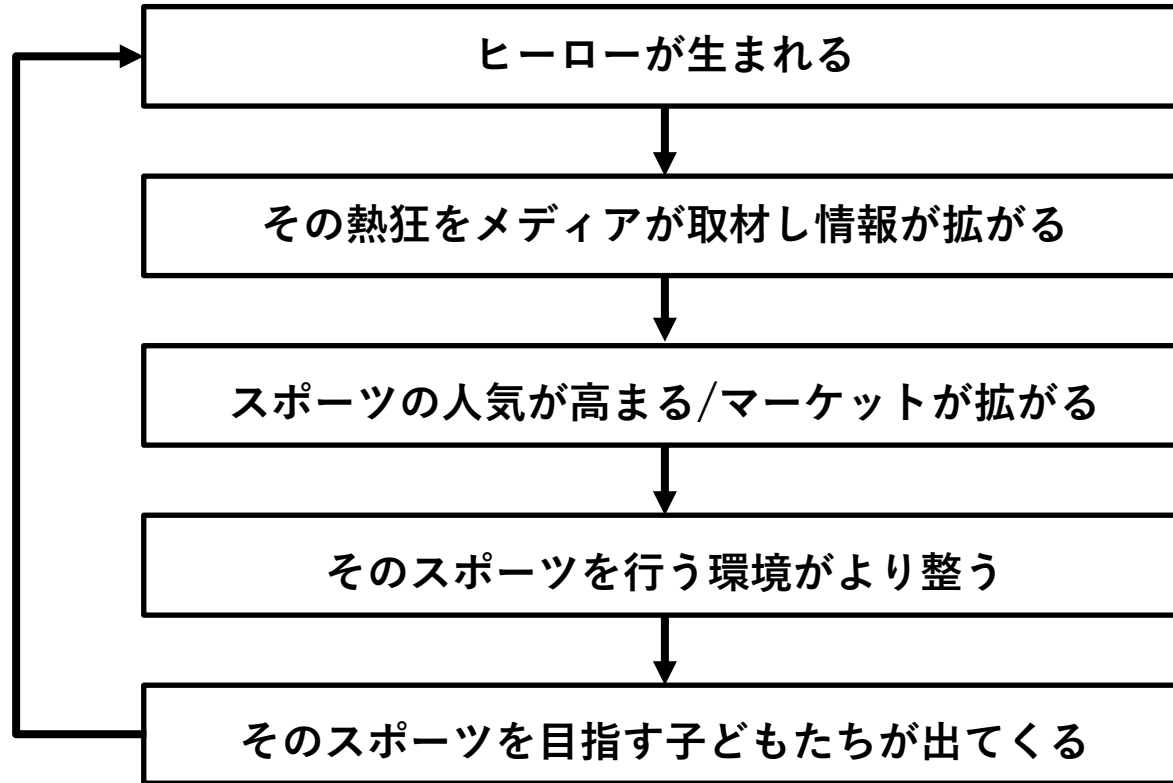
昭和の時代、スポーツといえば野球、が当たり前でした。
プロスポーツと言えば、プロ野球が中心で、
毎日地上波で放映されているナイターの試合を見ては、
プロ野球選手に憧れ、
多くの子供達が、校庭・公園・河川敷で野球をして遊びました。

しかし令和の今、
野球以外のプロスポーツが多く登場し、
地上波でのナイター中継はなくなり、
テレビを見ていない世代は、スポーツニュース番組にも触れなくなり
SNSでもプロ野球の動画はテレビ放映権の権利上、多くは流れてこないため、
普通に生活をしていると、
野球の情報に触れることがない状況になってきています。

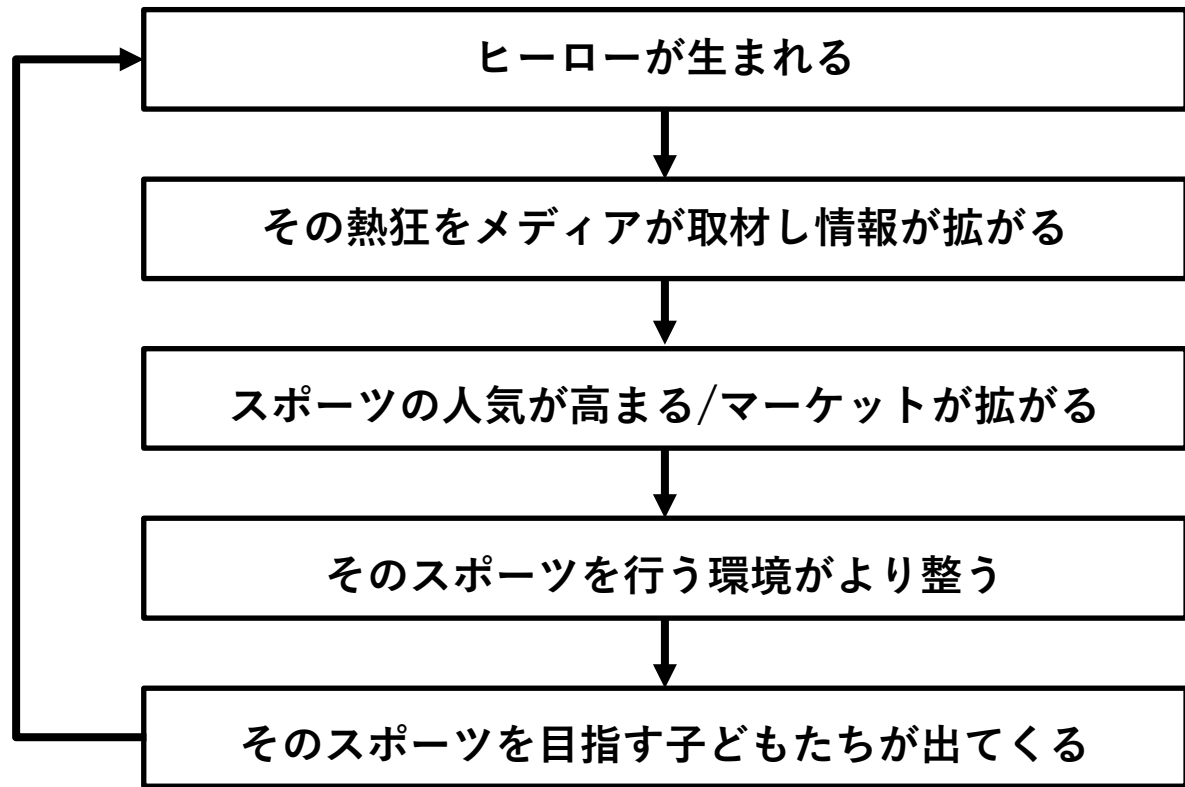
また、都心部の公園ではボール遊びが出来ず、
小学生の野球人口は減り続けており、
中学生以上で野球部に入る人も年々減少しています。

そもそもスポーツの人気の生まれる普及振興サイクルとは…

スポーツ振興サイクル



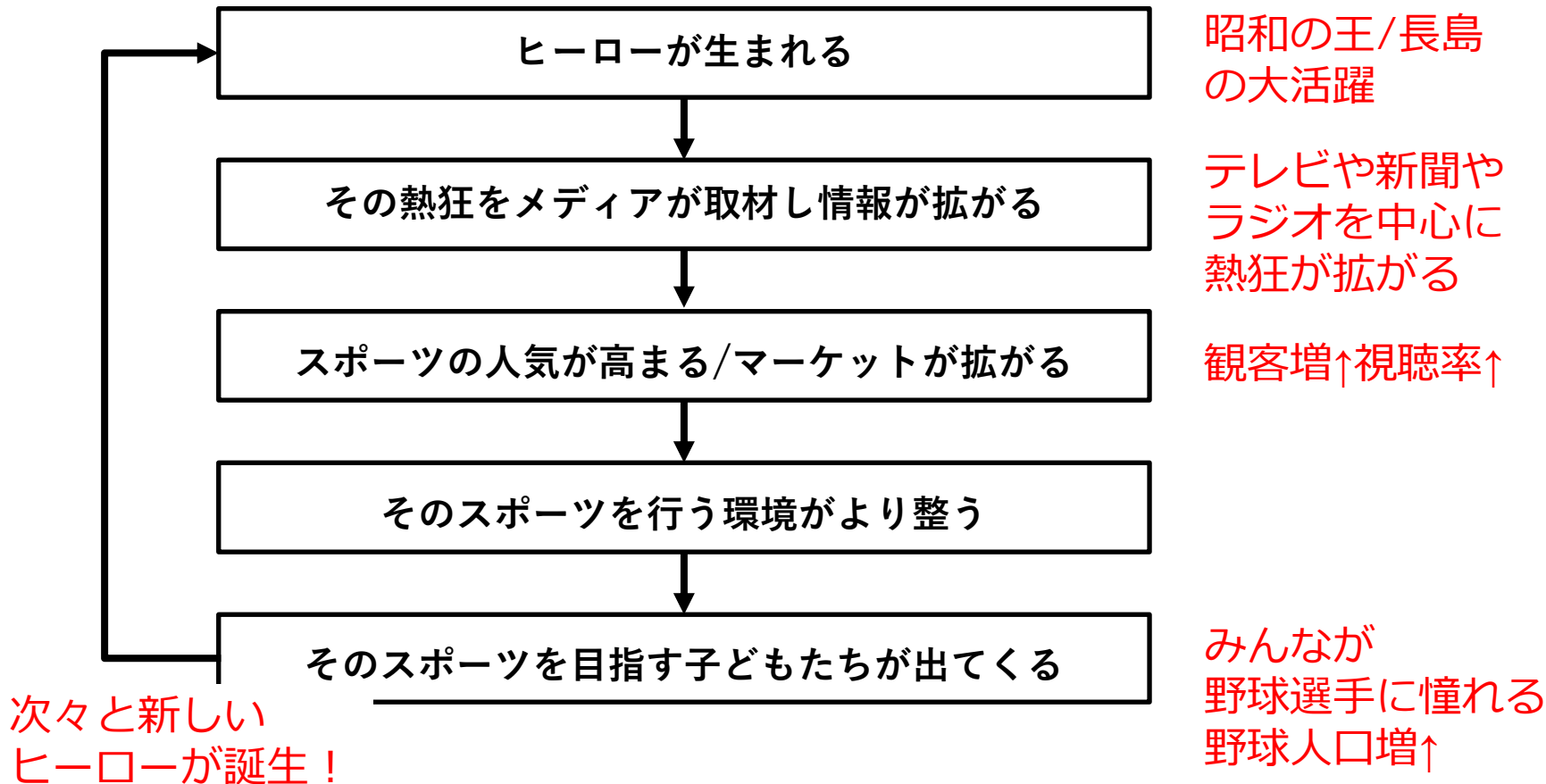
スポーツ振興サイクル



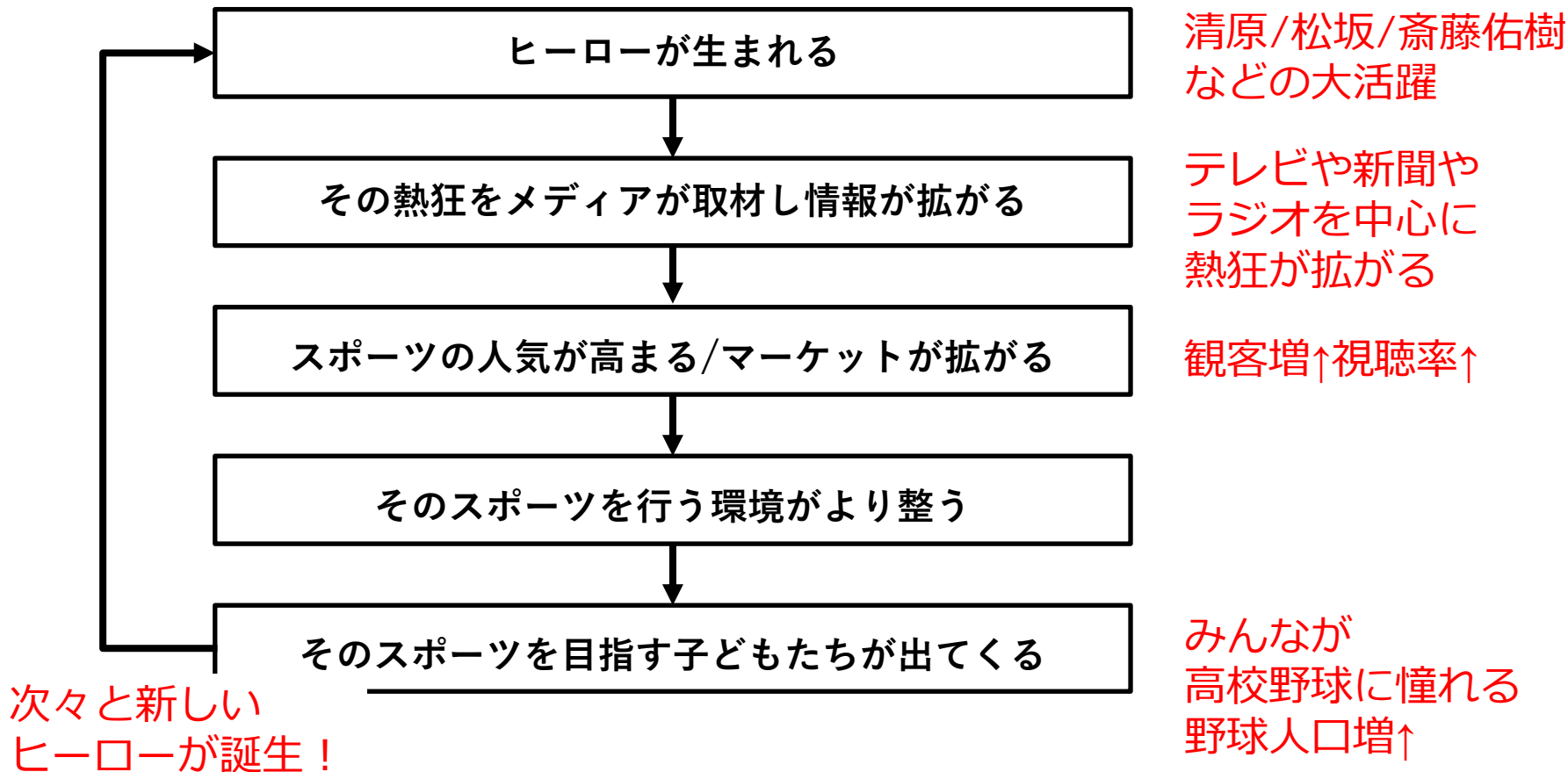
←いつの時代も
ここが起点。

←この熱の伝播が
夢と希望を生み出し
多くのステークホルダー
を動かす

スポーツ振興サイクル（昭和の時代はこのサイクルがうまく回っていた）

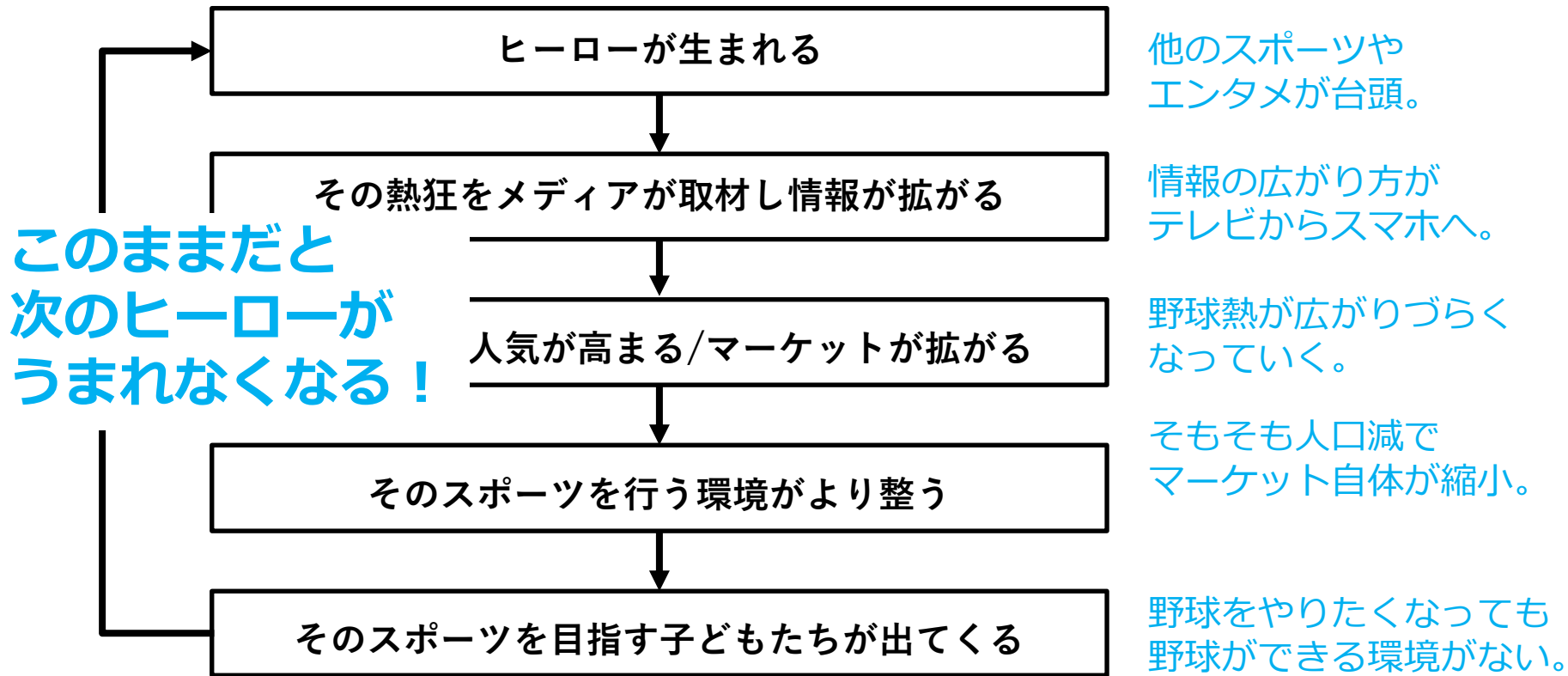


スポーツ振興サイクル（高校野球にもこのサイクルがある。）



しかし、今後は…

スポーツ振興サイクル（今後このままでは、このサイクルはまわっていかない）



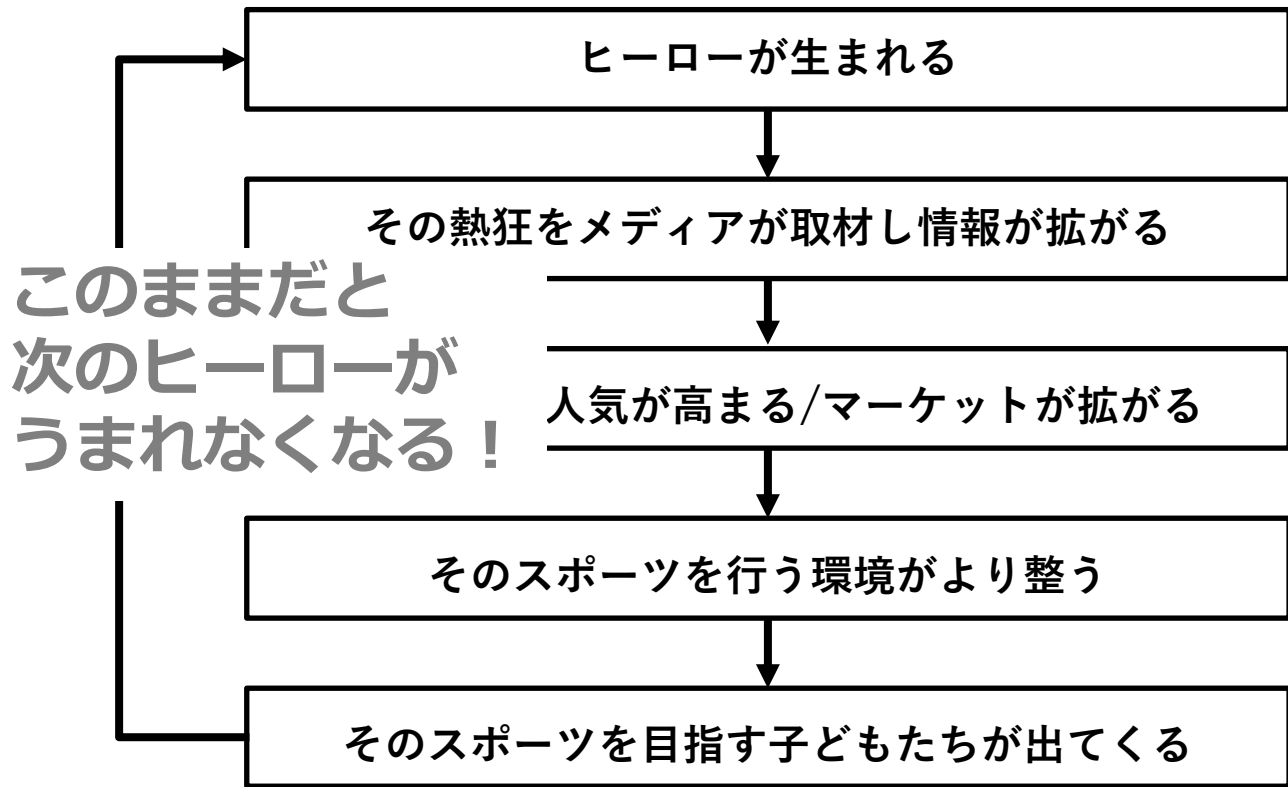
実際、小学生の野球人口減が進行中…

この負の連鎖を断ち切る必要がある。



そのために解決すべきマクロ課題は…

解決すべきマクロ課題



他のスポーツや
エンタメが台頭。

情報の広がり方が
テレビからスマホへ。

★潜在的な「野球熱の低下」

野球熱が広がりづら
くなっていく。

そもそも人口減で
マーケット自体が縮小。

★人口減に伴う

「日本マーケットの縮小」

野球をやりたくなっても
野球ができる環境がない。

★野球ができる「機会不足」

このマクロ課題に対して
私たちが後世のためにやるべきことは何なのか？

AGENDA

1. 現状の野球界における取り組みについて
2. 今後100年を見すえた時に解決すべきマクロ課題について
- ➡ 3. それを解決するための中長期的な打ち手案について
4. まとめ

まず行うことは、
具体的な取り組みの議論を開始するまえに

オール野球界で共通の「マクロ課題」を認識し、
それを解決するための骨太な方針をしっかりと掲げる

そして、中長期的な打ち手の議論が
しっかりされていく土壌をつくる

今後、様々な議論がされていく際の出発点を
明確にすることから始めていきます。

マクロ課題に対する
骨太の方針

3 + 1

未来に向けた骨太の方針

<マクロ課題>

★潜在的な「野球熱の低下」への対応

→

「熱」づくり

★野球ができる「機会不足」への対応

→

「機会」づくり

★「日本マーケットの縮小」への対応

→

「市場」づくり

★これらを推進する体制/財源がない

→

「体制/財源」づくり

まずはこの骨太の方針を
いつでも立ち返れるものとしてオール野球界で掲げます。

そしてたとえば、ですが、
こんな具体的なアクションについて
今後検討をしていこうと考えています。

★アクション仮説（たたき台）

「機会」づくり

「幼少期ベースボール原体験プロジェクト」

■マクロ課題：

校庭や公園でボール投げが出来ない等の問題もあり、未就学児・小学生低学年以下の子ども達が「野球をするのって楽しい」と思える幼少期での機会が減ってきている。一方で、そのターゲット向けのアプローチは、各チームや団体主体による局地的限定的なもので、野球界全体としては手を打てていないのが現状。また、共働き家庭やマルチスポーツ化が一般的になっている世の中で、多くの保護者層(特に母親)の選択肢になっていないという課題もある。

■打ち手：

そこで、プロ・アマ・経験者・地域等が連携しあう、未就学児・小学生低学年向けのベースボール原体験プロジェクトを企画し、推進。全国に配布された大谷翔平グローブを活用したNEXTアクションとして位置づけることも検討。特に野球に馴染みのない母親世代を意識した魅力的なプログラムを開発、プロ・アマ連携により、プロOB選手だけではなく学生を含む野球経験者・女性指導者の派遣、用具開発提供、地域・学校連携等（全国的なグラウンド解放など）を行っていく。

★アクション仮説（たたき台）

「機会」づくり

「地方創生ボールパーク開発プロジェクト」

■マクロ課題：

野球振興と地域創生がつながっておらず、自治体連携も弱い。地域連携は、各チームや団体の個別対応だけでは限界がある。また、各地の老朽化された野球場には和式トイレしかないなど、女性が利用する前提となっていないなどのインフラ面の課題も山積。

■打ち手：

スポーツ庁や各自治体との連携の枠組みを構築。地域の老朽化した野球場のインフラを整備し、応援に来ている保護者や女性等でも使いやすい場所に変えていくのはもちろん、ただ野球をするだけの場所にするのではなく、地域の図書館や公民館、スポーツジム、こども園、コワーキングオフィス、シニアレジデンス、ライブ会場、舞台、カフェやレストランなどと組み合わせた新しい複合施設としてリノベーションし、暮らしの中にスポーツがあるライフスタイルを生み出し、地域の生活の質を高める拠点にしていく。（MLBに挑戦した大リーガーが、自らの地元に新しい野球関連施設を建設する際に支援/共創等も）。

★アクション仮説（たたき台）

「熱」づくり

「次世代メディア巻き込みプロジェクト」

■マクロ課題：

日本のプロ野球・高校野球は特に、新聞、テレビ、ラジオ、雑誌などのマスメディアとの連携によって、社会に大きな野球熱を生み出してきた。一方で、台頭してきているデジタルを中心とした次世代メディアを活用した野球熱の作り方は、各団体や各チームに任されており、オール野球界としての打ち手がないのが現状（むしろ規制対象となっている）。一方で、昨今のヒットは、これら次世代メディアから生まれることが増えてきているため、次世代メディア内での野球熱の還流の仕組みづくりは、100年先を見据えた際には、非常に重要な課題。

■打ち手：

次世代メディア活用勉強会の実施。専門広報チーム立ち上げの支援。Youtuber巻き込み施策の実施支援（放映権をYoutuberに解放し、自由に切り抜きコンテンツがつけれるOur Momentsの仕組み等も参考）など、メディア環境の変化に対応した打ち手を実施。グローバルへの情報発信も行うことで、新しい「市場」づくりにも挑戦していく。

★アクション仮説（たたき台）

「熱」づくり

「野球指導者向けスクールプログラム」

■マクロ課題：

日本は、各世代において素晴らしい指導者がたくさんいる一方で、まだまだ前時代的な指導を行っている人も存在し、野球は古い教育観の元で行われていると多くの国民に認識されてしまっているのが現状。またビジネスにおいては、当たり前になりつつあるハラスメントやDE&Iに関する概念の浸透も遅い。こうした指導者教育について、BFJ中心としたライセンス制度の整備が始まっているものの認知度は低く、他競技に比べて粒度も荒い(U12以下で統一となっている)。結果、子どもの行動に強い影響を与える、教育熱心な母親からの支持も低くなっている。

■打ち手：

これから野球指導者となる人へのビジョンや教育観・心構えの共有、ハラスメントやDE&Iへの基本的な知識のインプット、素晴らしい指導者の知見の共有、それらを踏まえて、子どもの発達成長段階に合わせた、各世代・性別に即したライセンス制度・指導指針構築（既存制度のアップデート）等を推進。これらを推進するスクールプロジェクトを、オール野球界で推進。

★アクション仮説（たたき台）

「市場」づくり

「アジア市場開拓プロジェクト」

■マクロ課題：

今後人口が減っていく日本国内だけで市場開拓をしていくことには限界。一方、アジアでの野球市場開拓は、それを実際に検討・推進していく組織がなく、構想止まりなのがこれまで。各野球組織間の連携も乏しい。一方で、例えばMLBは中国プロ野球(CNBL)と戦略提携を発表して人気タレントをアンバサダー起用するなどグラスルーツ活動を行っている。

■打ち手：

MLBにおいて大谷が活躍することで、ジャパンマネーがMLBに流れ込むように、NPBでアジアの選手が活躍することで、アジア各国のマネーがNPBひいては日本野球界全体に還流していく仕組みをつくる。例えば、アジアに新リーグを立ち上げる、アジアに甲子園の仕組みを持ち込む、その手前で選手間の国際交流・普及活動実施等々。すぐに着手するのはハードルが高いものの、100年先を見越して、オール野球界で中長期目線での検討をはじめべきテーマ。

★アクション仮説（たたき台）

「体制/財源」づくり

「法人&基金を立ち上げ」

■マクロ課題：

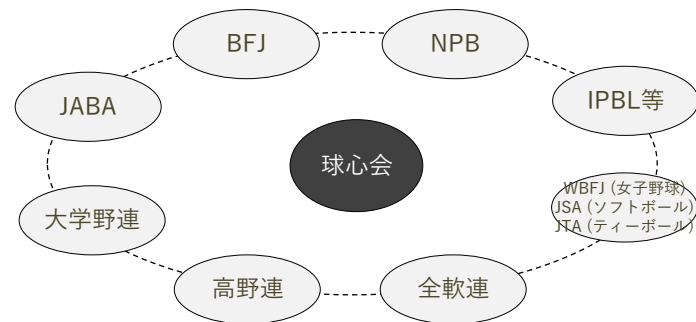
オール野球界のマクロ課題を踏まえて、中長期目線でアクションを検討・実施する体制と財源がない。

■打ち手：

それぞれの個別団体の活動では解決しきれない「マクロ課題への対策アクション」の検討・推進を担う新法人を設立。主に下記の3つの機能を担う。

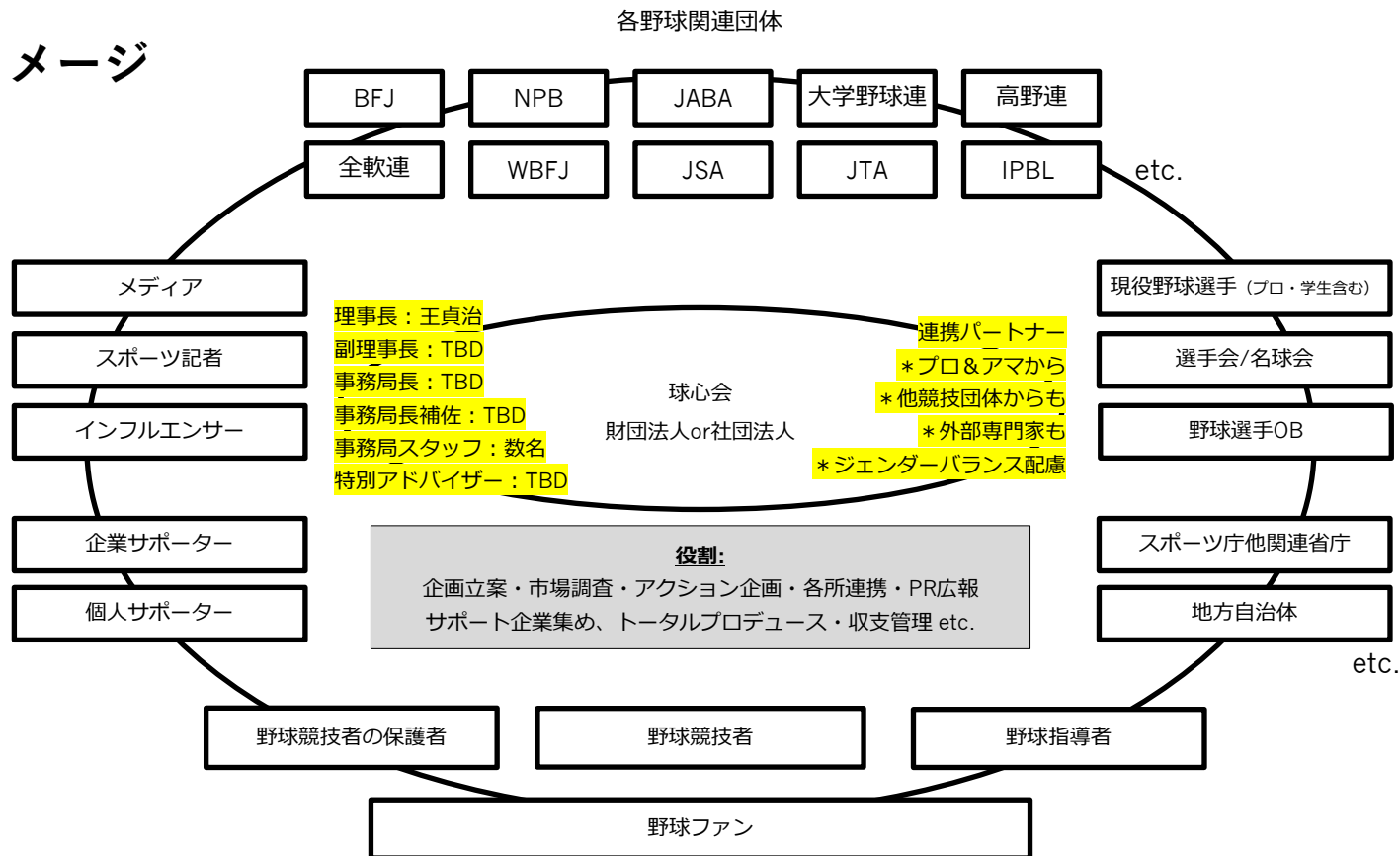
- ・ 各団体、連盟とのハブ機能
- ・ 各団体、連盟との連携を深めるための施策の企画・立案
- ・ 上記施策を実現するための財源確保

実際の法人形態、体制、人事、寄付/協賛/運用の仕組みづくりは今後詳細を詰めていく。
事務局人材及び初動の財源確保も検討。



★アクション仮説 (たたき台)

連携イメージ



これらのアクション案は、まだ「たとえば」ですが、
こうした議論を、中長期的なマクロ課題を解決するための
「熱づくり」「機会づくり」「市場づくり」「体制/財源づくり」
という骨太の方針に沿って、スタートさせていきます。

未来に向けての骨太の方針

それぞれの団体の個別活動では解決しきれない「マクロ課題に対する中長期的な打ち手」について検討/実施を行う。



未来に向けての骨太の方針

それぞれの団体の個別活動では解決しきれない「マクロ課題に対する中長期的な打ち手」について検討/実施を行う。

<マクロ課題>

野球ができる「機会不足」

潜在的な「野球熱の低下」

日本マーケットの縮小

推進する体制/財源がない

<骨太の方針>

「機会」づくり

「熱」づくり

「市場」づくり

「体制/財源」づくり

次の時代の新ヒーローをつくる

<具体的なアクション例>

「例：幼稚園・小学校・中学校・高校・大学・社会人」

「例：幼稚園・小学校・中学校・高校・大学・社会人」

具体的なアクション案に関しましては、是非多くの皆様からもアイデアをお寄せ頂ければと思っております。それらを踏まえて、検討していきたいと考えています。

「例：法人&基盤」

AGENDA

1. 現状の野球界における取り組みについて
2. 今後100年を見すえた時に解決すべきマクロ課題について
3. それを解決するための中長期的な打ち手案について
- ➡ 4. まとめ

本日、この場で
皆様に発表させて頂きたかったことは、

世界を沸かし、子どもたちに夢と希望を与えるヒーローが
これからも野球界、ひいてはスポーツ界から生まれる未来に向けて、

これまで出来ていなかったオール野球界で力をあわせ、
中長期目線に取り組んでいく骨太の方針を掲げ、
具体的なアクションの議論をはじめていくこと、になります。

一歩ずつの歩みにはなりますが
ぜひ、ファンの皆様とも一緒になりながら
前に進んでいければと思っております。

そしてそのためにも
本日、このプロジェクトに名前をつけて
この骨太の方針をしっかりと打ち出したいと思います。

2100年を生きる人たちが振り返ったときに
2024年にあの骨太の方針を出したことが、全てのはじまりだった、
と思ってもらえるように。

常に立ち戻れるレガシーとして、
発起人である王さん、そして各野球団体と共に、
今回打ち出したいと思います。



未来のための 骨太の方針

王貞治・大谷翔平を超える
世界的ヒーローを生みだそう！

BEYOND OH! PROJECT

- WHY** 王貞治・大谷翔平を超えるような、
世界を沸かし、子どもたちに夢と希望を与える世界的ヒーローを、
野球界・スポーツ界から生まれる未来をつくる。
- WHAT** 50年後・100年後を見据えた「マクロ課題に対する骨太の方針」をオール野球界で掲げ、
それに沿った打ち手の議論を進め、具体的なアクションを行っていく。
- ★野球ができる機会不足→**骨太の方針「機会づくり」** ★日本マーケットの縮小→**骨太の方針「市場づくり」**
★潜在的な野球熱の低下→**骨太の方針「熱づくり」** ★推進体制/財源が未整備→**骨太の方針「体制/財源づくり」**
- HOW** (具体的なアクションの中身は今後検討)

ロードマップ（予定）



2024年11月20日 NPBオーナー会議含む関連組織にご提案
→ 「骨太の方針」を発表

2025年 3月 体制発表 → アクション検討開始

2025年11月 第1弾アクション発表 & 活動開始

20XX年12月 その後毎年、振り返りとアクションを発表していきます

わたしたちが野球からもらった夢の力。
これを将来世代にもつないでいきたい。

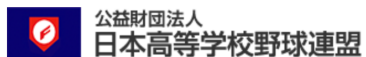
後世の人から

ここが歴史的転換点だったね、と言われるために。
いま、わたしたちの世代に出来ることは何なのか。

是非、野球を愛する多くの皆様と一緒に
進めていきたいと思っていますので
ご支援ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

問い合わせ先) info@kyushin-kai.jp

BEYOND H! PROJECT



公益財団法人
全日本軟式野球連盟

